



インターナショナルスクールとの連携による観光まちづくり活動

下仁田町 観光課

「SNSを活用した情報発信」「外国人向けの観光情報PR」これらは昨今の観光行政に必須命題であるとともに、悩みの種でもあります。

これらの根底部には、「魅力的な人が発信したSNS情報は目を引き、役場などが発信した情報は何だかつまらない。」そんな考えが見てとれ、現に役場のホームページなどは、それほど閲覧数は上がりません。

これらを鑑み、若い視点で、しかも国際的に下仁田町の魅力を発信できる手法はないかと考え、軽井沢町にある『ISAK(インターナショナルスクール・オブ・アジア・軽井沢)』へ企画書を持ち込みました。

この学校は、世界29か国から世界のリーダーを育成しようと設立された全寮制の高校です。この学校の生徒を下仁田町の観光地に招待し、かれらのインスタグラムやfacebookで情報発信してもらおうという発想から今回の事業が生まれました。

「世界遺産 荒船風穴」は、絹産業はもとより、自然の冷気を産業活用した文化財であり、特にアジア諸国からの生徒からは「産業と自然の共生」という観点の質問が出され、改めて魅力的な文化財であることが確認されました。

文明開化とともに始まった酪農の象徴的な存在である「神津牧場」、当地の「こんにゃく料理」、「永寿寺での座禅体験」、町営温泉の「荒船の湯」など下仁田町で体験できるメニューを提供し、世界各国へ情報発信していただきました。

学校公式facebook、インスタグラムの他、生徒それぞれが持つアカウントから英語や母国語で情報発信するなど、下仁田町の観光地が世界へ拡散していったことと推察されます。

インバウンド対応、SNSの有効活用など従来型の行政が最も苦手とする分野である一方、これらを得意分野とする次世代の子どもたちが増加してきていることは言うまでもありません。

まちづくりや観光PRなどは、従来から「協働」がキーワードでありましたが、多種多様なツールの普及により今後は「役割分担」をより明確にする必要があると考えられます。

「餅は餅屋」得意分野や立ち位置を決め、お互いの長所を認め合うことが、より良い「まちづくり」のスタートと改めて考えさせられる事業となりました。

